

ポリオ（急性灰白髄炎いわゆる小児麻痺）は、身体麻痺の後遺症をもたらす、時として命さえも奪う伝染病です。この基金は、ポリオを世界から撲滅するという目標を達成するために利用されます。治療法のないポリオに対する最善の対策は予防です。ロータリアンはこれまで、122カ国、20億人以上の子どもたちへのポリオ予防接種を支援してきました。わずか70円ほどのワクチンで、一人の子どもを生涯ポリオから守ることができます。ポリオ撲滅のための基金「ポリオプラス」へは毎年1人当たり30ドルの寄付をお願いしています。

当地区の寄付の目標額（日本の目標）は年次基金へ会員一人当たり150ドル、ポリオプラスへ会員一人当たり30ドル

ロータリー財団では皆様の寄付に対し感謝の印として様々な認証レベルと認証品をご用意しています。

ポール・ハリスフェロー（PHF）やベネファクターなどが主なものです。

ポール・ハリス・ソサエティ会員とは毎年1,000ドル以上をご寄付いただく事をお約束いただくことでご入会いただけます。

PHS会員には、その貢献を称えるための特別な襟ピンが贈られます。今後当地区ではPHS会員の拡大に今後力を入れていきます。

次にシェアシステムの具体的な金額（今年度）をご説明します。

3年前の年次基金寄付総額は343,352ドルでした。

㊦343,352ドル×50%=171,176ドル

㊧前年度の恒久基金の収益の50%=30,698ドル

㊨前年度の繰越金90,552ドル ㊦～㊨の合計が地区財団活動資金で292,426ドルとなります。

そこから地区補助金へ99,334ドル、グローバル補助金へ85,000ドル、ポリオプラスへ50,000ドル、ロータリー平和センターへ25,000、予備費として33,092ドルの配分を計画しております。

次にシェアシステムのシェアという言葉の意味を改めて見てみましょう。

分け前、取り分という意味の他に出し分、割り当て、負担、役割、参加、貢献という意味も持っています。

次に寄付金の現状についてご説明していきます。地区ごとに会員数が違います。寄付総額ではなく1人当たりの寄付額で比べてみましょう。

昨年度1人当たりの寄付額は全国34地区中、17番目という結果でした。

次に関東地方の地区で比べてみましょう。

関東地方の地区の状況はどのようなのでしょうか？2790地区は関東の地区の中で2番目低いという結果です。

過去5年間の平均を調べてみました。5年間の平均が121ドルという結果でした。

関東地方の10地区中、10番目という結果です。なんとも悲しい結果です。

ロータリーは寄付団体ではございません。しかしこれでもいいのでしょうか？

「シェア」分け合う反面負担もしあうものです。

確実に関東の平均を下げています。いや、日本の平均も下げています。

次に地区の状況です。昨年度年次基金寄付の総額は378,875ドル。1人当たりの平均は137.12ドル（全国平均144ドル）。昨年度も1人当たりの寄付目標は150ドルでした。これを達成されているクラブは26クラブ。未達成クラブは57クラブという結果でした。また、最も多いクラブで1人当たり542ドル。最も少ないクラブで1人当たり14ドルでした。数年前までは100倍以上の差が開いていたのですが、年々格差は縮まっては来ています。

最後に皆様のクラブの寄付実績を見て行きましょう。昨年度の年次基金寄付一人当たりの寄付実績は83クラブ中59番目で82.03ドルでした。

引き続き一人当たりの寄付目標へのご理解ご協力をお願い致します。

26ドル50セントの最初の寄付が行われて以来、財団の資産は約11億ドルにまで成長し、これまでに30億ドル以上の資金が、世界中の何百万人もの生活に変化をもたらすプログラムや奉仕プロジェクトに投じられてきました。

「世界で良いことをしよう」その第一歩は皆様の寄付から始まります。



本日の卓話
水野晋治様